



林業福島

No. **675**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 齋藤卓夫



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.



11 2020

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 木材ピラミッド



山行き苗木の安定生産に向けて

福島県農林種苗農業協同組合

代表理事組合長 野尻 榮一

福島県農林種苗農業協同組合の業務運営にあたり、平素よりご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、日本各地において深刻となっております。そのような状況の中で、今年九月に本県にて開催することで準備を進めてきました「第六回全苗連生産者の集い」につきましては開催を次年度（令和三年九月）に延期することになりました。全国の苗木生産者が一堂に会し、本県の復旧、復興の現状等を理解して貰う機会を逃したことは残念ではありますが、来年には新型コロナウイルスが沈静化された状況で開催できるものと期待しております。

さて、本県における人工林の多くが利用可能な林齢となり、森林の多面的機能の発揮と持続的な林業経営のためには、伐採後の確実な再造林が必要で、植え付け作業のコスト低減や苗木生産の効率化が期待できるコンテナ苗の活用は、低コスト造林の推進に重要と考えられています。当組合におきましては、平成二五年三月にコンテナを導入して生産を開始して以来、スギ山行き苗におけるコンテナ苗の占める割合は年々増加し、令和元年には出荷量の八六割を占めるまでになりました。コンテナ苗の生産につきましては、これまで様々な取り組みが行われておりますが、地域の気候を考慮した管理など生産技術の向上が一層求められています。組合員の技術力の向上を図るため、圃場における研修会や意見交換会の開催など、組合員が一丸となって品質の向上と安定生産に取り組んでおります。

このような中、令和二年度全国山林苗畑品評会が農林水産祭参加行事として行われ、本県からは、(有)上原樹苗（南相馬市）が、農林水産大臣賞（天皇盃も併せて受賞）を、林野庁長官賞を古川一男氏（猪苗代町）が受賞いたしました。特に農林水産大臣賞は三年連続での受賞となり、本県の苗木生産技術の高さが評価されたものと考えております。

今後、苗木の安定生産を通じ、森林・林業の復興・発展に取り組んでまいりますので、皆様の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら

山行き苗木の安定生産に向けて	
福島県農林種苗農業協同組合	
代表理事組合長 野尻 榮一	1
心を込めて植えました	2
県政コーナー	
福島県における木材利用について	3
身も心もあったかい！ペレット・薪ストーブで	
去年とはひと味違う冬に！	4

特集「震災十年」⑧

森林・林業の再生に向けた取組	5～6
福島県優良建設工事表彰について	7
普及指導員通信	8
林研グループだより	9
フォレストだより	10
木の文化を育む⑩	11
木材市況・ふくしま東西南北	12
はなしのひろば・お知らせコーナー	13

心を込めて植えました ～未来へつなぐ希望の森林づくり～

ふくしま植樹祭
実行委員会

第3回ふくしま植樹祭猪苗代大会は、台風14号（チャンホン）の予想し難い進路影響などを受けて中止となりました。

今回の大会は、新型コロナウイルスの影響により、当初計画しました参加規模を2,000人から県内限定の1,000人とさせていただいたにも関わらず、大会関係者も含めて1,000人を超す応募をいただき誠にありがとうございました。

大会に向けて用意しましたアカマツやサクラなど10種、2,500本は、10月12日と13日の両日にかけて実行委員会の有志職員により、ふくしまの美しい緑と心が未来も豊かであり続けるよう心を込めて植えました。

今後とも、「森林づくりを続ける、広げる、繋げる」をテーマに森林との共生や循環の理念に基づく植樹祭に取り組んで参りますので一層の応援をよろしくお願いいたします。



心を込めて植えましょう!!



大きく育て緑の輪。



心地よい汗が出ます。



アカマツ1,250本植えました。



モニワザクラ70本植えました。



記念樹も植樹完了です。



参加者の皆さんに代わり植樹しました。



「ふくしま植樹祭、応援してまあいす」
2020ミス日本みどりの女神井戸川百花さん

「福島県における木材利用について」

福島県林業振興課

○森林資源の充実と素材(丸太)生産量

福島県の森林資源は充実の一途であり、人工林面積の七割以上が五〇年生以上となっています。今こそ「伐つて」適材適所で余すところなく「使う」とともに、確実に「植えて、育てる」につなげて、森林の循環利用を未来に引き継いでいく必要があります。

福島県の素材(丸太)生産量は、

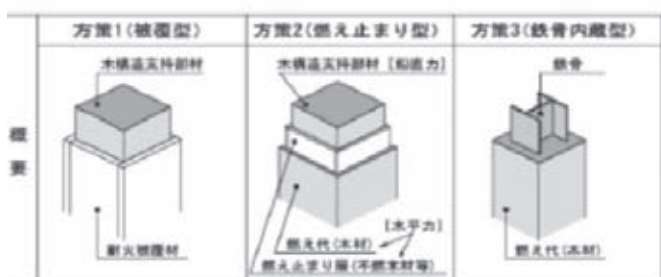
東日本大震災をきっかけに一時落ち込みましたが、平成三〇年末現在では、震災前を上回る水準の九五万立方メートルまで回復しています。これに輸入材等を加えた県内木材供給量の約半数は製材用として利用されており、県内で生産される製材品量は約三八万立方メートルで、その八割は県外へ出荷され、特に関東圏向けが大半を占めています。

○木材利用の現況

福島県で生産された木製品は一般

住宅の建築材料としてだけでなく、非住宅向け建築材料のほか木質バイオマス資源や土木資材としての利用など多様な用途で利用されています。一般住宅の着工数が人口減少等を背景に減少傾向にあることから、

■ 木質系耐火部材



木質耐火構造の方式

林野庁HP「森林・林業の現状と課題」より引用



戸越銀座駅
県内の事業者が集成材を製造

特に非住宅分野での木材利用が大きく期待されています。県内には中高層建築物に用いることができる木質系耐火部材などを製造する技術を有する木材事業者が数多く存在し、首都圏の駅舎などに活用される事例も増えています。

○木材需要拡大に向けた福島県の取組
福島県においては、木材需要を拡大するため、新用途・新技術を開発する取組や首都圏又は海外向けに木

材製品や技術の販路を拡大する取組を支援しています。

・木材製品需要拡大技術導入事業
(森林環境基金事業) (平成二八年度)

木質系耐火部材や壁柱の継手金物を開発する取組などこれまで十二件を支援しています。

・ふくしま県産材競争力強化支援事業 (令和元年度)

首都圏へ耐火集成材・接合工法の販路を拡大する取組や、海外へ家庭用品や耐力壁の販路を拡大する取組などこれまで九件を支援しています。



木材製品需要拡大技術導入事業
製品開発(性能試験)状況



高輪ゲートウェイ駅
天井の集成材に県産材を使用して
県内の事業者が製造

身も心もあつたかい！ ペレット・薪ストーブで 去年とはひと味違う冬に！



と言えるのです。

○実際の評判は…？

実際に本事業でストーブを導入された方からは、「揺らめく炎にとても癒やされる」、「ストーブの熱を使つて料理もできるので楽しい」、「災害時の暖房や乾燥にとても役立った」など多くのお喜びの声をいただいております。ただ暖かいだけではなく、

見ているだけで癒やされたり、料理など生活の幅が広がる楽しさもあるようです。また、近年多発する災害への備えの一つとして導入する方もいるようです。皆様もこの機会に、ペレット、薪ストーブのある生活を始めてみませんか。きっと今までもとは違う素敵な冬が待っていますよ。

募集期間は令和三年二月二六日(金)までとなっていますが、補助台数の一〇〇台に達した時点で募集を締め切らせていただきますので、導入されるご予定の方はお早めにお申し込みください。申請に際しては様々な注意事項がございますので、申請窓口である福島県木材協同組合連合会のホームページ等でご確認ください。

〈申請窓口・お問い合わせ先〉

福島県木材協同組合連合会

〒九六〇―一八〇四三

福島市中町五―一八(林業会館二階)

TEL…〇二四―五三三―三三〇七

FAX…〇二四―五二一―一三〇八

福島県では、県民の皆様からいただいた森林環境税を活用した事業として、「木質バイオマス利用ストーブ普及支援事業」を実施しています。この事業は、木質ペレット(木材を粉碎したオガ粉を円筒状に固めたもの)又は薪を燃料としたストーブの購入設置に対し、一台五〇、〇〇〇円を補助するというものです。炎揺らめく木のストーブ、暖房器具としてだけではなく、「森と人の関わり」という観点で見ると、違った魅力が見えてきます。

○森と人の架け橋？

木質ペレットや薪などの木質燃料は、主に森林の育成過程で生じる間伐材や、製材工場からの製材端材、のこ屑などを有効利用して作られています。そのため、ペレットや薪を積極的に使うことで、「伐って、使つて、植えて、育てる」という森林資

源の循環利用を後押しすることができます。近年、県内の森林資源は年々充実しており、このような循環利用を促進することで、災害に強く、豊かな森林を作っていくことができま

す。地域の木材を生活の中で活用することのできるペレット、薪ストーブは、生活の助けになるだけではなく、身の回りの森林をより良い状態に導くにはうってつけという訳です。また、木材を燃やした際に発生する二酸化炭素は、樹木が成長の際に吸収した二酸化炭素であるため、化石燃料のように、大気中の二酸化炭素を増大させないとされています(カーボンニュートラル)。このように、木材を燃料にしたストーブは、燃料の生産から使用までの環境に対する負荷が小さいだけでなく、人の暮らしや、森林の環境を上手く循環させる事ができる、「森と人の架け橋」だ



特集「震災十年」⑧

森林・林業の再生に向けた取組

福島県森林組合連合会

一 はじめに

平成二三年三月に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質は、県内の森林整備やしいたけ原木生産に大きな影響を与え、その影響は、現在も継続しております。

森林は、水源かん養や土砂流出防止等の公益的機能を有するとともに、県民生活、山村地域の振興に深く関わっており、森林整備を進めることでその役割が維持されます。

このため、森林・林業の再生に向けて系統森林組合が一丸となって取り組みを進めております。

二 放射性物質による影響

(1) 森林整備面積の停滞

本県の森林整備面積の推移を見ると原発事故前の平成二二年度が一、一九四鈔あったものが、二

(2) しいたけ原木の生産

本県は、阿武隈地域を中心にしいたけ用原木の生産が盛んで、県内に供給されるとともに県外にも移出され、多くの方がしいたけ原木の生産に従事していました。

原発事故後「きこの原木及び菌床用培地の当面の指標値」が示され、県内の大部分でしいたけ原木の生産が困難な状態が続いています。

しいたけ原木林は、二〇年程度のサイクルで伐採を繰り返し、更新が行われませんが、伐採によるしいたけ原木の生産ができなくなることが危惧されます。

三 森林の再生に向けた取組

(1) 放射性物質の把握と空間線量率の低減への取組

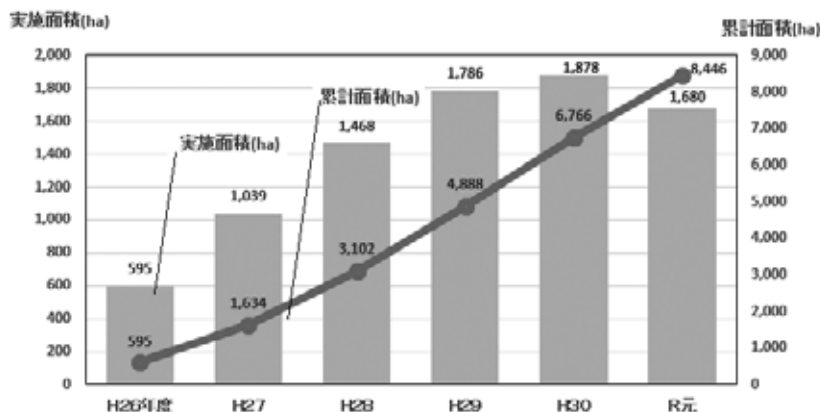
県では、平成二三年度から県内の民有林において、森林内における空間線量率の測定が開始され、毎年その測定結果が公表されており、森林整備等の推進に役立っています。

また、森林内の空間線量率の低減を図るための実証試験が平成二四年度から二本松市、川内村で実施され、森林整備と空間線量率の低減が検証されています。

二本松市のスギ間伐実施箇所では、間伐後に空間線量率が約九割低減しており、間伐後七年五ヶ月経過後も低減効果を維持しています。

また、間伐は、森林内を明るくし、下層植生を繁茂させることで雨滴が直接地面に当たることを減らし、表土の移動を抑制することによって放射性セシウムの移動を抑制する効果が期待されます。現在、森林内の放射性物質の九〇％以上が土壌に分布していることから、間伐による下層植生の回復や土砂流出防止対策が重要になっています。

森林再生事業年度別実施と累計の推移



さらに、しいたけ原木林の再生のために伐採された広葉樹萌芽に含まれるセシウム濃度についても、県が平成二五年度から継続して調査を実施し、その濃度の推移を見ると平成二五～二七年度にかけて大きく低下しているが、その後、漸減傾向で推移しています。

今後、萌芽枝のセシウム濃度の動向がきこの原木の再生に大きく影響するものと考えます。

(2) ふくしま森林再生事業の実施

本県の森林・林業の再生を図るため復興予算を活用した「ふくしま森林再生事業」は、平成二四年度二月補正に計上されました。事業は、平成二五年度から開始され、全体計画、年次別計画等を策定し、森林整備が繰越となったことから、実績は、二六年度からになっています。

森林再生事業は、市町村等が事業主体となって間伐等の森林整備とその実施に必要な放射性物質対策を一体的に実施し、間伐・作業道の整備と放射性物質の移動抑制対策としての丸太柵工等を施工しています。

対象地域は、汚染状況重点調査地域、除染特別地域（解除市町村も含む）が対象となっており、令和元年度末で四四市町村が実施しています。

森林再生事業の実績は、令和元年度末の累計で森林整備を八、八四六畝、作業道整備延長が一、〇三二キロメートルとなっています。

さらに、事業の円滑な推進を図るため市町村の事業実施への支援として総合管理業務をコンサルタントへ委託して実施できる事業となっています。

(3) 広葉樹林再生事業の実施

放射性物質の影響により、きのこ原木の指標値を超える原木林があることから、次世代への原木林となる広葉樹の再生を図るため更新に必要な伐採・作業道の整備をする「広葉樹林再生事業」が平成二六年度から実施されました。対象区域は、当初、会津若松市、喜多方市、南会津郡、耶麻郡、大沼郡でしたが、令和二年度からは、県内全域に拡大されています。

令和元年度末までの累計実施面積は、一〇一畝となっており、しいたけ原木林の再生には、伐採して更新することが不可欠であり、事業による成果が期待されます。

四 おわりに

放射性物質の影響を受けた森林の整備については、長期間を要する取り組みが必要であることから、令和三年度以降の本県の森林・林業再生への国の支援の継続を要望してまいりました。

復興・創生期間後の森林の再生に向けて、国は、令和元年十二月に「復興・創生期間後における東日本大震災からの復興の基本方針」が閣議決定され、間伐等の森林整備とその実施に必要な放射性物質対策等の

継続実施や原木林、原木しいたけ等の特用林産物の産地再生に向けた取組を進めることが明記されました。さらに、「復興庁設置法等の一部を改正する法律」の付帯決議や「令和三年度以降の復興の取組について」

においても本県の今後の森林・林業の再生に向けた道筋が示されました。森林・林業の再生には、様々な課題が山積してありますが、引き続き、その取り組みを進めてまいりたいと考えております。



広葉樹林再生事業の作業（西会津町森林組合）



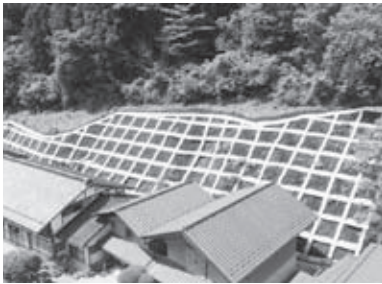
ふくしま森林再生事業（更新伐）ふくしま中央森林組合

福島県優良建設工事表彰について

福島県農林技術課

令和2年度福島県優良建設工事は、令和元年度に完成した工事を対象とし、農林水産部関係で7部門9件、土木部関係で14部門22件の受賞が決まりました。

ここでは、森林林業関係の受賞工事3件について紹介します。



治山部門

- **施工業者** 大沼林産工業 株式会社 (伊達市) 代表取締役 大沼 貞生
- **事業名** 治山施設 (県営) 0101工事 寺道地区
- **施工場所** 福島市大波字寺道 地内
- **工事概要** 山腹工 A=0.04ha 請負額 40,029,000円
- **寸評** 本工事は、人家に近接した山腹崩壊地の復旧工事であり、作業スペースが非常に狭く、全て人力での施工となるなど、制約の多い現場条件での工事であった。

施工に当たっては、バックホウ等の重機が使えないため、モノレールを使用し資材搬入や残土運搬作業を行うとともに、自作した木製シュートを活用してモノレール台車に積込など搬出作業の効率化に努めた。

また、法枠工の最下段の梁と水路工の間に充填コンクリートを施工し、法枠と水路のなじみを良くしたほか、親綱の損傷防止や作業性確保のため保護具を設置するなどの安全対策、施工時の騒音・振動発生を防ぐ環境対策も高く評価できる。



治山部門

- **施工業者** 株式会社 長谷川建材 (西会津町) 代表取締役 長谷川 孝
- **事業名** 防災林造成3001工事 若林地区
- **施工場所** 耶麻郡西会津町奥川大字飯根字若林 地内
- **工事概要** 山腹工 A=0.06ha 請負額 33,202,440円
- **寸評** 本工事は、地山勾配が45度の非常に急峻な地形になだれ柵を設置する工事であり、下方が県道であること、豪雪地帯であることから工期が限られるなど、制約の多い現場条件での工事であった。

施工に当たっては、資材搬入の効率化と作業員の現場までの昇降の安全確保を図るため、設計より大型のモノレールを確保するとともに、資材搬入時期を綿密に調整するなど、高い計画性によって工期内に完成させた。

また、なだれ柵の設置位置を座標管理し作業の効率化を図ったほか、損傷防止のためのシート養生や、ボルトの締付管理ではプリセットトルクレンチを使用し、バラツキを規格値の50%以内に収めるなどの品質向上に努めたことなどが高く評価できる。



林道部門

- **施工業者** 久米工業 株式会社 (南会津町) 代表取締役 渡部 雅孝
- **事業名** 林業専用道 (県営) 3001工事 昼滝向山線
- **施工場所** 南会津郡南会津町針生字昼滝山 地内
- **工事概要** 道路工 L=210.0m 請負額 20,327,760円
- **寸評** 本工事は、森林整備の促進を目的とした林業専用道の開設工事であり、標高が1,000mを超え、火山灰を含む土質で多数の湧水が発生しており、縦断勾配も12.8%と急勾配であるなど、厳しい現場条件、

施工条件での工事であった。

施工に当たっては、湧水対策として暗渠管や礫暗渠を提案し良好な状態で施工に努めるとともに、路面舗装時のコンクリート打設の際には、スパーサーの使用個数を増やし鉄網のずれ防止を図るなど、きめ細かな取り組みにより工事を完成させたほか、環境への配慮や社会貢献活動も高く評価できる。

緑の文化財を カシナガキクイムシ被害から守れ!

福島県相双農林事務所富岡林業指導所
主任主査 内藤 大介

1 はじめに

平成12年度に西会津町で県内初となるカシナガキクイムシ（以下「カシナガ」という。）によるナラ枯れ被害が確認されてから20年が経過しようとしていますが、近年、双葉管内においても被害木が確認されるようになり、その勢いは年々増えている状況です。

そのような中、緑の文化財に登録されている「^{だいしょうじ}大聖寺のアカガシ樹群」（浪江町）にカシナガによるものと思われる枯損枝の発生が確認され、同時に^{せんこう}穿孔も確認されました。本文化財は東北地方では珍しい「アカガシ」の樹群で、現在37本が生存（指定時43本）しており、太いもので直径2 m、樹齢は約300年と推定されるものもあり、県の天然記念物に指定されています。

この貴重な財産をカシナガ被害から守るため、浪江町と協力しながら保全対策を行っていますので、その取組について報告します。

2 取組内容

(1) 現地調査

6月初旬、樹木医、森林保全課及び林業研究センター職員を招いての現地調査を行い、樹勢診断を行ってもらった結果、「当地区は、東日本大震災及び原子力発電事故の影響による避難区域であったことから、所有者及び町が震災前に行っていた維持管理作業も十分に行えず、竹の進入も受けており、併せて除染作業による表土除去による樹勢への影響を少なからず受けているものと推測されたため、樹勢への影響を加味しながら長期的に被害対策を実施すべき」との見解が示されました。

また、被害発生初期であることや樹木が大木であることを踏まえ、カシナガ成虫の密度を下げマスマタックを避ける方法として、クリアファイルを使用した捕獲方法について提案されました。

この方法は、静岡県で開発された簡易な捕獲方法（トラップ）で、昨年度の林業普及指導員全体研修会において、いわき農林事務所が活動発表したものと同じものです。

(2) 簡易トラップの設置指導

現地調査後、浪江町教育委員会の職員らと共同で、予備試験として文化財に指定されている全てのアカガシに1個ずつの簡易トラップを設置し、設置1週間後に捕獲状況を調査しました。

そして、より多くのカシナガが捕獲できたアカガシに対しては、簡易トラップを追加設置することとし、その作業を、7月中旬に相双地方地区別研修会として、相双農林事務所職員、市町村林務担当者、森林組合職員を対象とした実習形式で実施しました。



写真1 現地調査の実施状況



写真2 地区別研修会の模様



写真3 簡易トラップ設置実習

3 今後の展開

町では、簡易トラップの設置のほか、カシナガ捕獲シートの設置や侵入防止剤塗布などの予防措置や枯損枝の伐採も行っており、引き続き継続的な保全対策を検討しています。

また、被害の進行状況等を把握するため、ドローンを活用した上空からの定期的な観察も行っており、指導所では、浪江町及び林業研究センターと情報共有を図りながら、保全対策に関する適切な助言や指導を継続することとしています。

ほかの市町村においても、近年のナラ枯れ被害拡大への対策意識が高まっておりますので、今後、緑の文化財にとどまらず、被害拡大防止に向けた取組が波及していくことを期待しております。

林研グループだより

ブロックグループ
コンクールが
本県で開催!?



〔東北・北海道ブロック令和二年度
林業グループコンクール〕

日頃の林業グループ活動や研究成果を発表し、意見交換を行うブロック林業グループコンクールは、ブロッ

東北・北海道ブロック
令和二年度林業グループコンクール参加グループ

北海道	庫富林業グループ	
青森県	大鰐町林業育成会	
岩手県	一関地方森林組合室根婦人部 はなみずきの会	最優秀林業グループ
宮城県	鳴子林業研究会連絡協議会	
秋田県	平鹿地区林業後継者協議会	優秀林業グループ
山形県	村山市林業クラブ	
福島県	特定非営利活動法人 小野自然倶楽部	

今年度は、本県が東北・北海道ブロックの開催県になり、県と当協議会が連携して受入準備を進めました。平成30年の全国林業後継者大会の感動を再現、との意気込みで、新型コロナウイルス対策を講じながら会場や視察先を検討してまいりましたが、開催一ヶ月前になっても感染の

クコンクール開催都道府県、開催都道府県林業研究グループ連絡協議会、全国林業研究グループ連絡協議会（以下、「全林研」という。）の三者が主催して毎年行われています。

特定非営利活動法人 小野自然倶楽部
発表要旨・活動状況（抜粋）

令和元年度の活動

昨年度行った桜の植樹活動とその作業道を活用して行ったMTBの3時間耐久レースの1コマです。
4月の桜の植樹には120名の参加者、7月のMTBレースには70名が県内外から集まりました。
9月には夏井第一小学校40名と夏井川カヌー体験を行いました。
10月のMTB耐久レースには50名の参加者を迎えました。

大島桜・大島桜の植樹

小野ふれあいオフロードパーク
2時間耐久レース

夏井川のヌー体験

昨年度借り受けした国有地内でイベントとして行った植樹活動とその作業道を活用して行ったMTBのレースの1コマです。
北関東、東北各地よりたくさんの参加者を迎えました。こう言ったことが林業一辺倒だけではなく、多目的な森林の活用にもつながっていくものと考えます。
4月の大島桜・大島桜の植樹には120名の参加者。
7月の小野ふれあいオフロードパークこけら落としMTBレースには県内外から70名の参加者を迎えました。
9月には小野町立夏井第一小学校全校生徒40名と夏井川カヌー体験を行いました。
水の大切さを体験するとともに、以前よりだいたいふさいになってきた夏井川を実際に触れてもらいたい。これも流域住民の努力と地域で育てている森林のおかげです。
10月のMTB耐久レースには50名の参加者を迎え福島産牛肉を使ったすき焼きなども提供いたしました。

収束は芳しくなく、やむを得ず書面審査となりました。
「特定非営利活動法人小野自然倶楽部」（小野町）をはじめ各道県代表七つの林業グループが、それぞれ思いを込めて活動状況をまとめた資料により審査が行われ、九月二五日、最優秀林業グループに「一関地方森林組合室根婦人部 はなみずきの会」（岩手県）、優秀林業グループに「平鹿地区林業後継者協議会」（秋田県）が選出されました。
七つの林業グループには、活動の成果を称えて全林研会長賞が贈られ、また、最優秀グループはブロック代表として、後日行われる全国林業グループコンクールに推薦されることとなりました。

〔令和二年度未来の森林づくりを支える高校生表彰〕

また、今年度、全林研は「未来の森林づくりを支える高校生表彰」を創設しました。資格の取得や講習の受講など森林・林業の知識・技術の習得への取組が顕著である高校生を表彰する事業で、県立会津農林高等学校森林環境科三年の前田大輝（ただひ）さんが受賞しました。

前田さんは、野球部に所属し熱心に練習を重ねる一方、刈り払い機の講習やチェーンソー、振動ローラー等の特別教育を受講するなど森林・林業に関する知識・技術の習得に熱心に取り組み、また、課題研究ではウルシやキリの栽培研究に熱心に取り組んだことが評価されました。

林業グループと高校生表彰は、ブロックコンクールの席上で賞状等が授与される予定でしたが、書面審査への変更に伴い、別途お渡ししました。一堂に会してのコンクールは開催できませんでしたが、準備の取組を通して林業グループの熱意が共有できたように思います。開催に向けてご指導、ご協力いただいた皆様、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

フォレストだより

ふくしま県民の森から

公益財団法人 ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

新型コロナウイルスの影響により、ふくしま県民の森を管理している「ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団」の活動にも大きな影響がでております。

コロナ禍における、財団の対応、お客様の利用状況などをお伝えします。

1 新型コロナウイルス感染防止対策

(1) 休業と予約制限

四月十九日からの一ヶ月、県知事からの要請によりキャンプ場や日帰り温泉などを休業し、休業後の一ヶ月間は県内からのお客様のみに施設の提供を行いました。六月下旬に県外からのお客様の受け入れを再開しましたが、密集防止のため予約数を五〇割とし、七月からは七〇割としております。

(2) その他の提供施設等の制限

室内子ども遊び場は閉所し、ロビーやカフェのソファや座席、テーブルを一部撤去して密集防止

対策を行い、温泉施設は、サウナの提供休止や入場者数の調整を行い、空調管理を徹底して利用していただくいております。レンタル品も、テントやシュラフ等、お客様が直接触れ、消毒対応が困難なもの、レンタルを中止させていただいております。

(3) 接客対応や消毒

受付は、代表一名による手続きをお願いし、マスクの着用や手指の消毒、チェックインなどで並ぶ際も間隔を開けていただいております。お客様と職員の間には透明シートで仕切り、職員もマスクを着用し、フロント周りの空気の循環の管理を行っております。また、ビジターセンター内の定期的な消毒、コテージのドアノブやトイレなどは念入りに消毒を行っております。

2 オートキャンプ場の利用状況

休業もあり、四月と五月は利用者

数が激減し、二ヶ月間の利用者数は、対前年度比一八割となりました。六月以降はお客様の利用も増加し、夏休みがあつた八月は対前年度比約七〇割の利用者数に戻りました。九月末までの累計利用者数は約二二、〇〇〇人となり、昨年の利用者数、約三八、〇〇〇人の約六〇割となっております。

コロナ禍の影響で利用者が減少した一方で、良いこともありました。一定期間県外のお客様の利用制限をしたことから、県内のお客様の利用割合が増加し、初めて訪れるお客様も多く、県民の森を知っていただく機会となりました。

3 オートキャンプ場区域外の森林学習施設区域の状況

森林館などの森林学習施設区域も利用件数が前年より大幅に少なくなりました。九月以降は学校の利用が増え、森林にこだまする子ども達の声も増えてきました。

十月初旬現在、標高が六〇〇以上の位置にある県民の森には、安達太良山の頂上から紅葉が下りてきており、ビジ

ターセンターの温泉も心地よい季節となりました。キャンプ場区域内では、たぬきの親子がいたずらを繰り返し、外の森林学習施設区域では、いのししが場内整備を行った場所を中心に土を掘り起こし、職員を悩ませています。

キャンプや森林散策など、コロナ禍でも比較的安心して楽しむことができる自然あふれる「ふくしま県民の森」、皆様のご来場をお待ちしております。



木の文化を育む⑳

自然を活かし、人をつくる(NPO法人りょうぜん里山がっこう)

郡山女子大学人間生活学科建築デザインコース 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

伊達市霊山町は福島県の北部、阿武隈山地の中山間地域にあります。農業が盛んで、果物や野菜を大規模に生産し、約七、三〇〇人の住民が暮らしています。この町では、およそ三五〇年の歴史を持つ霊山太鼓をはじめ、様々な伝統芸能や祭りなどの貴重な文化が引き継がれ、神社や寺、史跡が数多く見られるなど、南北朝時代からの歴史が残されています。霊山の自然豊かな環境や歴史、伝統を次世代へ継承しようとする先人達の想いは、今もなお引き継がれ、人づくりの拠点にもなっています。

○人づくりの拠点

「りょうぜん里山がっこう」は代表理事の高野金助さんが廃校となった中学校の木造校舎を活用し、夢を育てる施設として平成十二年に設立しました。さまざまな体験活動ができるように校舎をリフォームし、森林を活かした自然体験プログラムや地場産の食材を使ったレストラン、米粉パン教室をはじめ、農村体験、

情報交流、各種視察・見学会、食や行事に関わるイベントなど、様々な活動を行っています。併設する宿泊施設「ほっこり」は地域の木工職人が県産木材を使用して建てた木の香りと温もりのある簡易宿所で、近年では首都圏や県内外の方々にも活用されています。昨今ではコロナ禍の下、より人間らしく生きるための場所、そして新しい働き方の拠点として利用されています。キッチン完備で自炊も可能なため、グループ滞在におすすめの施設となっています。

○体験型プログラムの実施

りょうぜん里山がっこうでは、「福島県もりの案内人」の認定を受けた講師が森林をフィールドとした自然体験プログラムとして、山歩きや木工教室などを実施しています。食や工芸などの各種教室では、専門家を講師として招き、里山がっこう自慢の米粉パンづくりや籠作り、体操など、多岐に渡る学びのプログラムが実施され、多くの人々が交流しています。また、農村体験では、連携団

体と共に、農作業や農村の暮らし、季節の行事を体験できるプログラムを開発・実施し、参加者は環境保全型農業を学ぶ良い機会となっています。

○移住・定住のすすめ

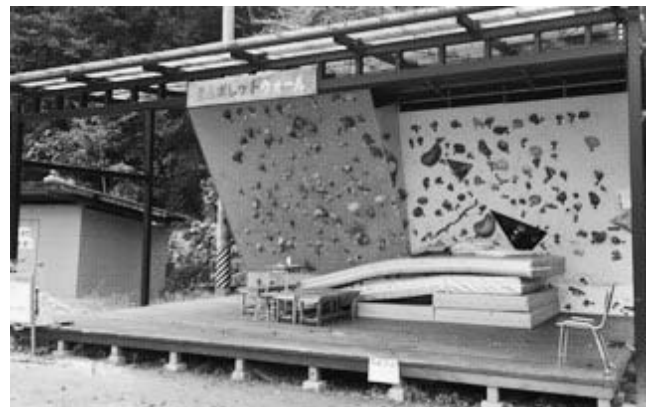
りょうぜん里山がっこうでは、県北地方振興局と連携を図りながら、毎年、首都圏で移住・定住相談会を実施し、福島県の県北地域への移住・定住をすすめる活動に取り組んできました。これまでに十三組の方々が伊達市内に移住しています。特に震災後は、福島に寄り添って共に活動しようとする意欲的な県内外の方々の繋がりが広がり、観光客やボールドリング愛好者、登山者、研究者などが里山や森林をフィールドに交流を深め、様々な活動をしています。

○まとめ

りょうぜん里山がっこうでは、ウッドデッキや山小屋、ボールドリングウォールなど、里山に親しむ場所を作ることができます。また、森林や里山をフィールドとした様々な体験活動は、森林保全の啓蒙と大人から子どもまで多くの人々が交流し、夢を育てる場となっています。貴方もぜひ、「りょうぜん里山がっこう」へ足を運んでみませんか？



子ども木工教室の作品



ボールドリングウォール

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(2020年8月15日現在)

(単位: m当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	8 (5~10)	1	(0~0)		9 (9~9)		8 (5~10)
		10~14		並	スギ	11 (11~12)		(0~0)		11 (11~12)		11 (11~12)
	中	14~22	3.00	並	スギ	10 (9~11)		14 (14~14)		12 (10~13)	1	11 (9~14)
				並	ヒノキ	12 (11~13)	1	(0~0)		14 (13~16)		13 (11~16)
			並	スギ	15 (15~16)		10 (10~10)		17 (16~18)		15 (10~18)	
		20~28	6.00	並	ヒノキ	24 (23~25)		(0~0)		22 (20~24)		23 (20~25)
				並	スギ	10 (10~12)		11 (10~12)		11 (10~13)		11 (10~13)
			並	スギ	9 (9~10)		10 (10~10)		11 (10~13)		10 (9~13)	
	外	30以上	10.00	並	アカマツ	9 (8~10)		(0~0)		8 (8~9)		9 (8~10)
				並	アカマツ	6 (5~8)		(0~0)		8 (8~8)		7 (5~8)
				並	米ツガ	(0~0)		(0~0)		30 (30~30)		30 (30~30)
	材	28以下	4.00	並	米マツ	28 (28~28)		30 (30~30)		28 (28~28)		29 (28~30)
並				エゾマツ	(0~0)		(0~0)		25 (25~25)		25 (25~25)	
並				アカマツ	(0~0)		(0~0)		25 (25~25)		25 (25~25)	
パルプ用材			並	カラマツ	(0~0)		(0~0)		25 (25~25)		25 (25~25)	
			並	マツ	7 (7~7)		(0~0)		7 (7~7)		7 (7~7)	
			並	広葉樹	10 (10~10)		(0~0)		(0~0)		10 (10~10)	

七月の原木市場への入荷量は、前月比三四割減(前年比三三割減)の一四、七三八立方メートルとなっている。販売量は、前月比二八割減(前年比二九割減)の一五、九〇〇立方メートルとなっている。八月の価格は保合いとなっている。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0~0)		7 (6~9)	
	13~14		並	カラマツ	(0~0)		8 (7~9)	
	16以上		並	カラマツ	(0~0)		10 (9~12)	

注) 1. 前月差の△印は値下りを示す。
2. () 内は各地域の価格幅、() 外は各地域の平均価格を示す。
3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。



小鳥の森の仲間たち

県北農林事務所 福地 雅弘

福島市の中心より東側、あぶくま親水公園の近傍に「福島市小鳥の森」があります。

九月下旬、案内板の前を過ぎイロハモミジの枝をくぐると、右手上方のヤマナシに、たくさんの実が付いてました。

この季節、小鳥の森や、その周辺では、動物たちの食餌風景を目にすることが多くなります。

カラスがクルミを道路上に並べます。見てみると、クルミを避けて通り過ぎる車がいまいます。さらに、その車を傍観するカラスもいます。

また、夜に出会ったタヌキは、声も出さずに、とぼけた仕草をするので笑ってしまいました。

外にも、自分に気付いたアナグマが、多分隠れたつもりでしょうか、大きなお尻でバレバレなのも面白かったです。

イノシシもいるようですが、まだ会ったことはありません。もし、この臆病者に会えたなら、人に悪さをしないよう少し驚かしてやるうかと

考えています。

月の明るい夜には、小鳥の森の稜線が美しく浮かび上がります。こんな夜は、木星のそばに土星らしき星影が見えますし、月を挟んだ反対側の空には火星も輝いています。

小鳥の森の仲間たちも、この星空を見上げることがあるでしょうか。

もう少し季節が移ろうと、夜、白鳥が森の上を飛びながら大きな声で冬の到来を教えてください。

それまで、森の仲間たちは、たく

さんの食餌をする

と思います

す。彼ら

が、森の

恵みを上手に利用

し、人と

仲良く過ごせる日々が来てほしいと願います。



表紙の写真



「木材ピラミッド」

第17回ふくしま森林・林業写真コンクール 特別賞
受賞者 澁谷謙治さん（福島市）
撮影場所：南会津町岩下

発行人
水戸印刷株式会社

編集
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
（福島市中町五番一八号県林業会館内）

発行
陽光社印刷株式会社
（定価 一〇〇円）



小さな光景

十一月の声を聞くと、今年も残すところ一ヶ月余り。周りを見渡すと、稲刈りの終わった水田の地肌には晩秋の陽が降りそそぎ、また次の田植えの時を待つ。そして、梨や林檎の収穫も終わり、たわわになっていた枝の葉も大地に還っていった。果樹木もまた清々と軽くなった様を見せ、枝はスクツと天に向かい、できるだけたくさん光を受け止めているかのようだ。また、落葉した街路樹の、枝の間から差し込む陽も穏やかで、この一年を終おうとしている全ての者を、優しく包みこむ包容力を感じる。周りがそれぞれの役目を果たし、目に見えて一年の終わりに向かっているが、そんな光景を眺めていると（私は、自分の役目をきちんと果たしているのだろうか？）と、ふと湧いてくる自分への問い。これは、晩秋の熱のない透明な光が、自分の内側を真つすぐ照らしてくれたからの問いかけだろうか。自分と対峙する嘘のつけない季節である。

さて、我が家の庭に目を向けると、雑草だらけの庭は、立ち枯れの草で枯野風になり、庭も自ら仕舞うそぶりをみせているが、私は、この枯野風の庭にも循環する自然の命を感じている。と、ふと見ると、庭の片すみで南天の赤い実が色を濃くしてきた。今度は、枯れ色の庭の片すみで南天の赤い実が、小さな灯りのように、ぼつと灯っていてくれるだろう。

「立冬」の朝に見た小さな光景である。

（都）

お知らせコーナー

「花粉発生源対策イベント」参加者募集中!

花粉の発生源となっているスギ林を花粉の少ない森林へ転換していくために、（一社）全国林業改良普及協会の主催、林野庁及び福島県の後援で「花粉発生源対策イベント」が本県で開催されます。どうぞご参加ください。

日時 令和2年11月20日(金)
13:30~16:20

会場 福島県環境創造センター交流棟
コミュタン福島ホール
（福島県田村郡三春町深作10-2
田村西部工業団地内
TEL 0247-61-5721）

定員
60名

13:40
普及内容1 **林野庁における花粉発生源対策について**
講師 林野庁森林整備部森林利用課森林環境保全班
14:15
普及内容2 **花粉症対策に資する品種の開発**
講師 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター
育種部 育種第一課 課長 倉本 哲嗣氏
14:50~15:00
休憩

15:00
普及内容3 **花粉飛散防止剤の開発**
講師 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
きのこ・森林微生物領域 森林病理研究室 主任研究員 高橋由紀子氏
15:35
普及内容4 **福島県における花粉発生源対策**
講師 福島県林業研究センター 森林環境部長 大槻 晃太氏
16:00
普及内容5 **花粉発生源対策全体に対する質疑応答**
16:20
閉会

参加ご希望の方は、参加申込書に必要事項をご記入のうえ、11月13日(金)までに FAX または電子メールにてお申し込みください。

お申し込み・お問合せ

(公社)福島県森林・林業・緑化協会

TEL: 024-573-0235 FAX: 024-521-3246 E-mail: kyokai-kanri@fukurin-net.jp

主催/一般社団法人 全国林業改良普及協会 後援/林野庁、福島県

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)
または最寄りの森林組合

イワフジの GP シリーズ

GP-35B グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.



傾斜地に対応した全回転チルトプロセッサ

- ・最大 38 度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材

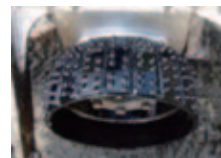
最新の GP-8 コントローラを搭載

- ・5.7 インチカラー液晶ディスプレイによる多彩な情報表示
- ・感圧式タッチパネル採用により操作性が向上
- ・A,B,C,D の 4 コード毎に 4 種類、合計 16 種類の測長設定値
- ・樹種を 4 種類登録でき、個別に測長調整値の設定が可能
- ・材積集計機能を標準で搭載



新開発のスタッドローラ (オプション)

- ・鉄輪の全周に装着された無数のスタッド(鋲)が材を強力に捉え、送りモータのトルクを伝えます。
- ・特殊形状のスタッドを一体化したシンプルな構造で、メンテナンスが容易



For the future with forest



イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



(南東北支店) 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168
(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西 5-1
(支 店) 札幌・東北・南東北・関東・中部・関西・中四国・九州

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤

ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリーンガード・NEO

くん蒸剤

ヤシマNCS

くん蒸用生分解性シート

くん蒸与作シートハイバリア

ハチ退治

ハチノックL (巢処理用スプレー)
ハチノックS (携帯用スプレー)

新商品

猪レスSTOPテープ

ヒルノックWスプレー

ヒルノックW



レインボー薬品株式会社

東京都台東区上野1-19-10 お問い合わせ TEL. 03(6740)7777 平日 9:00~17:00 (土日祝日は休み)



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW

SR3100



破砕径：200mm 出力：18.4kW

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚 108-1